

カトリック 仙台教区報

2014年9月7日

No.219

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

最後のカトリック宮城県大会

「未来につなぐ信仰を子どもたちとともに」

地区制に伴い、県単位の大会としては最後になる第41回カトリック宮城県大会が、7月13日(日)、大河原町えぞホールで開催され、500余名が参加した。今大会は、子どもたちを中心に進行し、子どもたちが教会内での活動や自分たちの信仰について発表し、ミサも子どもと共にささげるミサ。参加者は、子どもたちの力強く頼もしい活躍に万雷の拍手を贈り、子どもたちの姿に励まされた大会となった。●関連記事3p

宮城県大会

メッセージ 司教 平賀 徹夫

「わたしたちは主に
おいてひとつ」と言いま
すが、皆さんは、イエス
さまが好きですか？



う人々の心と生活の全体を満たしま
す」と言われます。いつでもイエス
様が中心にいて
くださるという
信仰が大切です。
さらに教皇様
は、「願わくは、
現代の人々が、
悲しみに沈んだ
元気のない福音
宣教師、忍耐を
欠き不安に駆ら
れている福音宣
教師からではな
く、すでにキリ
ストの喜びを受
け取り、その熱
意によって生活

が、でも、皆さんのお家の中に、近
所に子どもたちがいないわけではな
いと思います。その子たちに「イエ
ス様大好き」という子どもになっ
てもらいたいと思います。

教皇フランシスコは、2013年
11月24日に発表なさった「使徒的勸
告 福音の喜び」(6月日本語訳発行)
の中で「福音の喜びはイエスに出会

かえると「願わくは、教会の子ども
たちが、悲しみに沈んだ元気のな
い親、大人、信徒、修道者、司祭から
ではなく、常にキリストの喜びを受
け取りその熱意によって生活があか

あかと輝いている信徒や修道者、司
祭、そういう大人から福音を受け取
りますように」ということになると思
います。

教会の中で、大人たちが、イエス
様のメッセージを本当に喜んで受け
取り、それを喜んで生き生きと生き
ている、その姿を見せることで福音
の喜びが子どもたちに伝わっていく
のだと思います。

こうも書いています。「もはや、私
たちは受け身の体制で教会に人々が
来るのを待っているわけにはいかな
い。単なる現状維持を目的とした消
極的司牧から、積極的に宣教する司
牧へと移行しなければならぬ」(15
参照。教皇フランシスコは、これか
らの教会の課題の一つは、私たちが
出向いていく教会を作っていくかな
ければならない。それは、犠牲を伴う
ものですがそれを乗り越えて、イエ
ス様が共にいてくださることの喜び
を外に向けて伝えていく、喜びの源
である福音を伝えていくことが求め
られている、というのが教皇様の思
いです。

未来の教会をゆだねる教会の子ど
もたちに、私たちが喜びのうちにキ
リストを伝えていく姿を示して行き
たいものです。

今日、子どもたちの発表を聞きます。
その中から子どもたちの真摯な、純粋
な希望を受け止めながら、私たちの信
仰を伝えていくようにしたいものです。
私たち一人ひとりが「イエス様大好
き」という思いを持って進んで行き
たいと思います。

生命の泉

去る7月14日のBBCはイギリス
聖公会で女性主教が誕生したことを
トップで伝えた。1989年アメリカ、
スコットランド、ウェールズ、カナダ
等、今では30人の女性主教がいるが、
本家のイングランドでの誕生は別の意味を
持つ。そのために20年もの議論があった▼
ウィルビー・カンタベリー大主教は「感動ど
ろではありません。女性司祭皆さんのために
喜んでいきます。もし否決されていたら、いか
に美しく忍耐強く教会のことを分かっている
女性でも、それはあんまりだと思ったこと
でしょう」▼大主教は石油業界重役からの転
身だそう。このたびの決定にあたっては、
前歴の手法が生かされた。プロの仲介役の助
けを借りて圧倒的な支持を集めた。決定は大
主教の「まじめのうまさ」と戦略的思考の勝利
だ」と受け止められている▼1534年ヘン
リー8世はローマ教会とのつながりを絶つ
決定をした時、国内の修道院をすべて廃止し、
財産を没収した▼修道生活の道を絶たれた
女性信徒は神学者を目指したのかも知れな
い。このたびの決定には女性神学者の活躍が
目立った▼新女性主教は来年早々教区に着
座することになるが、任命された教区におい
て反対ならばオンブズマンが調停にあた
ることになっている▼あくまで男性司祭・主教
を固持する意見に対して「我々は世界に合わ
せるべきだ」とか、「教会は様々な意見を受
け入れる懐の深さがある」と反論されて
いる▼修道院の廃絶は女性特有の霊的なア
プローチの道を絶たれたと言えるかも知れ
ない。主の復活を最初に知ったマグダラのマ
リア以来女性の信仰は眼に見える組織を別
の角度から教会を支え続けている▼召命の
減少は深刻だが、私たちの休暇を修道院の聖
堂でゆっくり過ごすのはどうだろうか。誰も
いない聖堂で主は何を語られるか。(守)



教皇フランシスコのお言葉

=韓国124殉教者の列福式とアジア青年大会（AYD）で=

司教 平賀徹夫

去る8月半ばの韓国は教皇フランシスコの来訪で盛り上がっていました。16日にソウルで教皇司式による韓国124殉教者の列福式が予定されており、日本の司教団は韓国司教協議会からのご招待を頂いていたので私も参列してきました。その前後には第6回アジア青年大会（AYD）行事も開催されており、15日にはテジョン教区で聖母被昇天祭ミサと、その夕刻にはAYDの催しに参加し、17日にはAYDの閉幕ミサにも参加しました。この間の教皇様の説教・メッセージから心に残った一部分を紹介しようと思います。

列福式ミサの説教から：「現在、私たちの信仰は社会から試されています。私たちは様々な形で信仰について妥協し、福音で求められている基本的なことをないがしろにし、現代の考えに合わせるよう強いられています。殉教者は、命をかけるだけのものがあるかどうか（私たちが）自分自身に問うように挑んでいるのです…。」

AYD閉幕ミサ説教から：「…今回のAYDのテーマの一つは『アジアの若者よ、目覚めよ』ですが、『目覚める』とは、「抑圧、誘惑、さらには自分や他人の罪によって、聖性の美や福音の喜びに対する感性が鈍くなることのないように注意を払うという責務」に目覚めることです。私は眠っている若者を見るのは嫌いです。だめです。目覚めてください。行きなさい。前に進みなさい。私たちは神から憐れみを受けています。神の愛を信じて世界に出かけてください…。」

17日、アジアの司教団との会合で：「私たちのアイデンティティーを明確にし、それを表明するという責務は、いつも容易であるとも言えません。私たちも罪人であり、また、相対主義による幻惑や、キリスト者としてのアイデンティティーの堅固さを揺るがそうとする世からの脅威など、いろいろな形で現れる世の精神によって試されるからです。キリストへの生き生きした信仰こそ私たちの深いアイデンティティーの源です。主キリストに基を置き、私たちの生き方の単純さに表される主のみことばを、ためらいや怖れなくキリストを語りましょう…。」

教皇様の単純さ・率直さ、恐れなく、等のことばに接し、私は2008年11月24日の長崎での188殉教者列福式で、白柳枢機卿が説教の結びに大声で力強く呼びかけた「みなさん、怖れるな！」を思い出しました。

2013年カトリック教会現勢

カトリック中央協議会は、昨年1月から12月までの教会現勢を発表した。

その中から、一部を抜粋。全国の教会と仙台教区の現勢は、次の通り。

【在籍信徒数】（聖職者・修道者・神学生を除く）

	男子	女子	計
全 国	172,768	264,499	437,267 名
仙台教区	3,568	6,529	10,097 名

【聖職者・修道者・神学生数】

全 国	7,452 名
仙台教区	287 名

【信者数】信徒数+聖職者・修道者・神学生

全 国	444,719 名	前年比 +278 名
仙台教区	10,384 名	前年比 -249 名

【信者率】人口に対する信者の%

全 国	0.346%
仙台教区	0.149%

【教会数】小教区・準小教区・巡回・集会所

全 国	991
仙台教区	60

【修道院】宣教会・男子修道院・女子修道院・在俗会

	宣教	男子	女子	在俗	計
全 国	38	179	583	19	819
仙台教区	1	1	28	1	31

【医療施設】病院・診療所

全 国	41
仙台教区	2

【社会福祉施設】児童福祉・老人福祉・他

全 国	612
仙台教区	33

【教育施設】幼稚園 小学校 中学校 高等学校 短期大学 大 学 高 専 専修・各種 合計

全 国	527	54	103	114	16	20	1	11	847
仙台教区	47	7	9	8	2	1	0	0	74

【司教数】日本籍 外国籍 計（司教を含む）

全 国	866	543	1,409
仙台教区	20	18	38

【洗礼】幼児洗礼 成人洗礼

全 国	2,683	2,982	3,964	2,076	3,680
仙台教区	55	100	85	33	89

【堅信】【結婚】【求道者】

～ 教皇フランシスコ in 韓国 ～



第41回カトリック宮城県大会

大会は、午前10時、聖歌「ガリラヤの風がおる丘で」をもってはじまった。

主催者を代表して大会委員長 小田島輝夫氏は、「キリストは、『子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない』とおっしゃった。この大会は、『子どもたちの声を聴こう』という時間を中心に構成した。キリストに近づきたい子どもたちの夢、気持ちをしっかりと受け止め、その実現を支え、共に楽しい時間を作り上げていくことが、子どもたちと共に育つ教会の最初のステップになると信じます」と大会の趣旨を説明した。さらに、地区制に伴い、『宮城県大会』という顔ぶれで集まる機会は今回で最後

に行きたいという野望(最終目標)に参加した方々にお届けしました。私たちの活動は、バザーを開き売り上げの一部を募金すること。ペットボトルのキャップを収集し、資源の大切さを学ぶことなどです。歩み始めたばかりの小さな動きではありますが、自発的に行うことで神様とのつながり(信仰)を強くできるようにしました。そのことを今回の発表でお伝えできたと感じています。途方もない野望



になるが、今までのつながりを大切にし、これからの新たな地区の活動を豊かなものにしていくためにも、今日一日のために、私たちの思いを持ち寄り、高め、喜びで満たして行きますように」と、呼びかけた。

続いて、平賀司教がメッセージ全文で、キリストとつながっている喜びを人々に伝えていこうと会衆を励ました。

「子どもたちの声を聴こう」というステージでは、最初に、大きな拍手に迎えられて、県南4教会の子どもたちがホセ神父や、リーダーたちと登壇した。

「みなさんようこそ」のあいさつで、「二つ一つの教会で子どもの数は少ないが、4教会合同で集まると友達が増えてうれしい。でも、もつと友達が増えるといいな」と話した後で、元気な歌声を聴かせてくれた。



次に、一本杉教会の子どもたちが、「わたしたちはカナダに行きたい」のテーマで、パネルを示しながら教会での自分たちの活動について話した。特に、ミサの中で侍者を務めることについて、喜びと誇りを感じていることを話した。



さらに、同じ信仰を持った友達との出会い」をテーマに活動報告をした。仙塩地区8教会の教会学校の活動として、夏季学校のキャンプや、各教会を回って行われる「祈りの集い」や、広瀬川殉教碑への巡礼について発表した。

子どもたちの発表の合間に、フィリピンの婦人たちが、手作りの民族衣装で、ダンスを踊り大会に花を添えてくれた。

昼食をはさんで、13時30分から、平賀司教主司式で大会ミサ。子どもと共にささげるミサが行われた。侍者はもちろん、聖書朗読、共同祈願、奉納など、こどもも子どもたちが役割を分担し活躍した。特に、共同祈願は、会衆の心を打つ内容だった。

宮城県大会で発表して

「私たちの野望を届けに…」

一本杉教会 熊谷 凜

大河原町えずこホールで行われた最後のカトリック宮城県大会に一本杉教会中高生会・日曜学校として発表をしました。

題して「私たちはカナダに行きたい！」。

中高生会の立ち上げから最近までの活動について、そして数年後にはカナダのケベックへ研修旅行

に行きたいという野望(最終目標)に参加した方々にお届けしました。私たちの活動は、バザーを開き売り上げの一部を募金すること。ペットボトルのキャップを収集し、資源の大切さを学ぶことなどです。歩み始めたばかりの小さな動き

はありますが、自発的に行うことで神様とのつながり(信仰)を強くできるようにしました。そのことを今回の発表でお伝えできたと感じています。途方もない野望

を笑ったりせず皆さんが親身になって聞いてくださったのでこれからも頑張れると思いました。

一本杉教会は、子どもが6人と少人数ですが、強い絆で結ばれています。これからもアクションをおこし、この大きな目標を実現できるように前進します。

いつも、私たち子どもを温かく支援してくださったこと、すべてに感謝…。貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございます。

いつも、私たち子どもを温かく支援してくださったこと、すべてに感謝…。貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございます。

いつも、私たち子どもを温かく支援してくださったこと、すべてに感謝…。貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございます。

いつも、私たち子どもを温かく支援してくださったこと、すべてに感謝…。貴重な経験をさせてくださり、ありがとうございます。

【子どもたちの共同祈願】

◇被災した方々のために祈ります。今日の朝、南三陸から来ました。海はとてもきれいですが、津波の跡はまだまだあの日のままです。一日も早い復興を願って、皆さま方が幸せうに。

◇病氣の子どもたちのために祈ります。今の世界には、病氣で辛く苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。また、幼いうちに病氣で亡くなってしまいう子どもたちも多くいます。神さま、病氣の子どもたちが早く治り、元気になって家族と幸せな生活を送ることができまうに。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

◇神さま、あなたの家族である教会のために祈ります。みんなが仲良く互いに支え合うことができますように力をあててください。

外国人信徒と共に歩む教会

仙台教区滞日外国人支援センター

仙台教区滞日外国人支援センターは東日本大震災で被害を受けた滞日外国人の方々に必要な生活支援を行うため、宮城（気仙沼、南三陸、米川、石巻、一関、亘理）・青森（大湊、五戸、十和田、弘前、八戸）・福島（白河、須賀川、郡山、いわき、野田町）の各教会へ月に1回、手分けをしてタガログ語あるいはインタナショナルミサをするために行っています。

外国語ミサは外国人の多い仙台、盛岡、八戸、福島、郡山、いわきが以前からあり、現在、仙台教区滞日外国人支援

滞日外国人支援センターに

新メンバー

クラリータ・サンチェスさん（フィリピン・セブ島出身）、クレアさんと呼ばれています。



彼女は日本に来たのは2013年8月9日。日本語の勉強したのは201

3年9月から2014年6月までの10か月間で、まだ日本語はあまりできませんが、日本のことをもっと知りたいため頑張ってみなさんとコミュニケーションをとりたいと思っています。

日本に来るきっかけとなったのは以前、カトリック東京国際センター（CTIC）で働いていたフィリピン人のレイミッシュヨナリーが

援センターでは2人の司祭が岩手

（大船渡、北上、水沢、釜石）・宮城（気仙沼、南三陸、米川、石巻、一関、亘理）・青森（大湊、五戸、十和田、弘前、八戸）・福島（白河、須賀川、郡山、いわき、野田町）の各教会へ月に1回、手分けをしてタガログ語あるいはインタナショナルミサをするために行っています。

しかし、今後の外国人司牧の継続性を考えていくと、移動距離もさることながら、やはり各地区の司祭の協力を得ながら、日本人信徒と共にミサを行っていく必要があるのではないかとということに気

フィリピンに帰ることになり、紹介されたのがクレアさん。CTICではレイミッシュヨナリーとして、養成講座の担当、信仰育成の担当をしていました。この7月末から仙台教区の支援のためCTICから2年の契約で派遣され、仙台教区滞日外国人支援センターで働くこととなりました。

日本料理は何でも好きですが、特に好きなものはお寿司。でも、ただひとつ嫌いなものは納豆：趣味は読書（遠藤周作が好きです！）と映画鑑賞（黒澤明の映画は全部見ました！）とのこと。どうぞよろしくお願いいたします。

付きました。

今の問題は、月に1度のミサに外国人の親が参加していても子どもは日本語でないと理解できず、幼児洗礼を受けていたとしても、ミサにあずからず、遊んでいることがほとんどです。また、日本語ミサの理解が難しい外国人の親がミサに参加しなければ、子どもも参加しません。

今後、各地区の司祭と連携して、少しずつ日本語ミサの中にいろいろ取り込んでやっていくなど、小教区と一緒にやっていくことができれば、その信者さんとのつながりもでき、共同体としてより強いものになると思います。掃除当番や教会維持費など細かい問題はたくさん出てくると思いますが、

まずはゆっくりと時間をかけて日本人信徒と外国人信徒が歩み寄る必要があるのではないのでしょうか？



チャリティーコンサート

今まで教会に行けず、クリスマスやイースターのたびにカテドラルまで行っていた外国人信徒の方々も地元の教会につながることであれば、わざわざ遠くまで行かなくても済みます。外国人信徒の中には運転免許を持っていない方もたくさんおられ、日本人の家族に休みの日に遠くの教会まで送ってもらうことに気を使っておられる方もいるそうです。

大船渡教会では震災後、フィリピンのお母さんたちが教会に来てくれるようになり、信者数は倍増

少しずつ教会の行事にも一緒に参加してくれています。日本語ミサでタガログ語の主の祈りを歌い、日本人信徒と外国人信徒の歩み寄りが見て取れます。お母さんに連れられてくる小さな子どもも日本語の讃美歌だけでなく母親の母語

のタガログ語の主の祈りを歌っていたり、ミサ中、司祭の言う言葉を真似て言ってみたりする様子を見ると未来は明るい！と感じます。今後、日本の高齢化が進むにつれて日本の教会内も小さな子どもさんがいる外国人信徒と共に歩んでいくことは、これからの教会にとつて大きな力になることは確かです。

仙台教区滞日外国人支援センター移転

この度、仙台教区滞日外国人支援センター事務所が大船渡教会からカリタス石巻ベースへ移転いた

しました。活動内容は今までと変わりありません。が！協力司祭であるハルノコー神父様が転出され、今まで2人でやっていたことをギヤリー神父様1人でやることになった上に、教区での新しい地区制度が始まってまだ間もない各小教区におられる神父様方とのスケジュール調整などの連携がまだまだ難しいのが現状です。そのため月1回のタガログ語・英語・インタナショナルミサの予定変更が考えられます。

ミサ以外に「何やっているの？」と思われる方も多いでしょう。例えば、教会での日本語教室、病气や子どもさんのいる家庭など困っている方への支援物資配布・家庭訪問、石巻も港町で外国から船が入るため船員司牧など：支援センターは東日本大震災で被害を受けた滞日外国人の方々に必要な生活支援を行うため、被災地にある教会やベースなどと協力し、みんなと共に歩むことによって、適切な復興に向かっていけるよう支援し、海外からきた兄弟姉妹が日本社会の中で暮らしやすい環境を作ることができるよう活動し、現在に至っています。しかし、まだまだ支援センターの存在を知らない方々も多く、「え！何それ？」と思われる方もいらっしゃると思いますが、少しずつでも多くの人と関わっていけるように活動していきたいと思っています。（林）

仙塩地区8教会の 教会学校合同サマーキャンプ

今年も昨年に引き続き加美町の
中新田交流センターにて、
8月5～7日の2泊3日
間で行われました。

今回は中高生のキャン
プも兼ねたため、小学
生30名、中学生9名、森
田神父様・ロワゼール神
父様とシスター3名を含
む大人のリーダー17名と、
日帰りや通いで参加のホセ神
父様やリーダーたちも含めれば、
総勢60名以上のにぎやかなキャン
プとなりました。

「心とからだで祈る」をテーマ



を練習し、最終日のミサに盛り込
みました。

中高生は一部別プログラム

で、聖書深読なども
行ないました。2日

目の午前中には、
地元の農家の方々
のご指導で田んぼ

や用水路の生き物を探す
活動を楽しみ、ザリガニやどじ
ょう、鮎までも捕まえました。

3日間たいへんな猛暑でした
が、幸い交流センターの部屋は冷
房完備だったため、体調を崩す子
どももなく、充実した3日間を過

に、福音劇や
手話の「主の
祈り」、テゼ
の歌の数々



ごすことができました。また、食
事担当のお母さん方のおかげで
みんなと食卓を囲み、手作りの美
味しい食事をいただいたことも
元気の源でした。

それぞれの教会での子どもは
少なくても、こうやって多くの教
会の子どもたちが集まり、同じ信
仰を持つ仲間を確認する機会は、
大きな意義があります。また頑張

っている若いリーダーや中高
生サブリダーと接すること
は、身近な信仰のモデルとな
り子どもたちにとっては大切
な経験となります。

来年は、今回参加者がいな
かった教会からもぜひ多くの
子どもたちとリーダーが参加
してくれることを祈ります。
なお仙塩地区教会学校では、
今年度は10月13日(月・祝)
に一本杉教会にて第1回子ど
もの祈りの集いを、2015
年2月11日(水・祝)には第
2回の祈りの集いで、広瀬川
殉教碑巡礼を行います。多
くの子どもたちの参加を待っ
ています。

(八木山教会・佐々木いづみ
元寺小路教会・荒賀久仁夫)

就任司祭の自己紹介

ジャン・シヤール ロワゼール
仙塩地区第6地区協力司祭
ケベック外国宣教会員
17年ぶり、懐か
しい仙台に戻りま
した。自分の人生の
間に、まさか仙台に
戻ってくると思いませんでした。
神様のいたずらのような気がい
たします。こちらに来て何ができ
るかはまだ分かりませんが、いま
まで主にゆだねて自分の宣教方
針を決めていたので、これから
も、すべて主に任してやります。
どうぞよろしくお願い申し上
げます。

【略歴】
1934年11月3日生まれ、79歳
出身地：カナダ、ケベック州
アクトン・バール (Acton Vale)
司祭叙階：1959年6月29日
日本初来日：1960年9月
1960年～1967年：赤堤(東京)
1967年～1968年：モントリオール
1969年～1988年：東京・日野市
1988年～1997年：仙台
1997年～2007年：ケベック
2007年～2014年：東京
2014年4月より、仙台に異動



司教日程

9月・10月

- 9・5 金 仙台正平協の会合
- 8 月 部落差別人権委・定例会
- 9 火 司祭評・定例会 教区司祭団・役
- 10 水 子どもと女性権利 擁護デスク
- 13 土 正平協全国集会
- 16 火 カリタス金石
- 18 木 学法律事会
- 19 金 仙台教区サポーター会議
- 20 土 グアダルペ宣教会総長来訪
- 21 日 カトリック青森県の集い
- 22 月 福島会議
- 23 火 大阪大司教区着座式
- 27 土 部落差別人権委・シンポ
- 29 土 10・4 教区司祭団黙想会
- 10・2 木 特別臨時司教総会予備日
- 8 水 部落差別人権委・事務局
- 12 土 13 教会委員長の集い
- 14 土 15 日本カトリック神学院
- 16 木 教誨師大会式典
- 18 土 宣教司牧評・役員会
- 19 日 いわき教会厳信式
- 23 木 学法律事会
- 24 金 会津若松ザベリ才学園 80周年
- 25 土 北上教会50周年
- 26 日 ロゴス研究所
- 27 月 教区司祭団月例会
- 31 金 カトリック医療施設協会 全国大会



特別養護老人ホーム「暁星園」新築移転 より質の高いサービスをめざして

カトリック仙台司教区を設立した。この間に、1996年（平成8年）には、ターミナルケア（終末介護）シフトを開始し、終日見守り介護を大切に行って来ましたが、最近10年間では、106名の方が帰天、51名の方々が施設内仮設聖堂で葬儀（お別れ会）を行い、出棺時には、聖歌を全員で歌いながらお見送りしました。

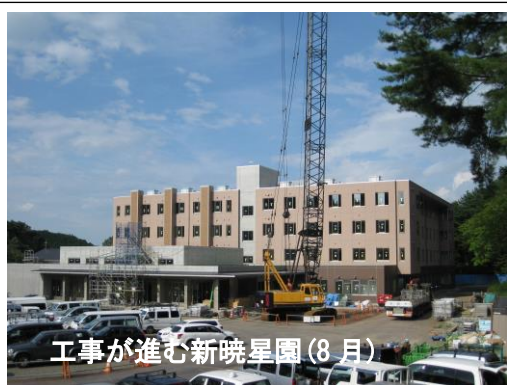
39年前、ギリシャ正教の信者さんから現在の土地の寄附を受け、定員50名（現在は56名）で開設されました。

開設から現在（8月末）までに延べ426人の方々が暁星園を「終の棲家」として生活され、336人（内71名の方が信者）の方々がこの施設で帰天されました。

2009年（平成21年）10月に光ヶ丘スヘルマン病院に隣接した宮城県所有の「仙台青年の家跡地」を取得し、2012年（平成24年）9月に仙台市の民間高齢者福祉施設整備事業に採択、昨年10月から新しい暁星園建設が開始されました。

工事は順調に推移し、10月末に竣工引渡し、12月には長期定員60名・短期定員20名で部分開園します。

更に来年の4月には、長期定員



を60名増やし、120名で全面開園しますが現在の暁星園（写真右）は、引越後に解体撤去工事が行われます。

暁星園入所希望者は介護保険制度適用により宮城県以外に住む方でも利用出来ます。また介護職員・看護職員・パート介護職員・ボランティアを募集しています。求人情報など詳しいことは、当法人のホームページか暁星園にお問合せ下さい。

《募金のお願い》

建設に当っては、多額の資金が必要で、仙台市からの補助金と公的機関の借入とカトリック仙台司教区からの借入及び自己資金で賄う予定ですが、大震災による復興事業と重なり、建設コストは当初見込みより大幅に高騰し、厳しい状況にあります。

今春、皆様方にカトリック仙台司教区の小教区と修道会を通して「建設募金趣意書」を送らせて頂きましたが目標金額に程遠い状態です。皆様のご支援宜しくお願い申し上げます。

（法人本部事務局長 岡田耕二）

滝田 十和男さんを紹介します

教区人権を考える委員会は2007年以来、ハンセン病問題について取り組んでいます。カトリック松ヶ丘教会（青森市）、カトリック新生園教会（宮城県登米市）は、いずれも国立ハンセン病療養所の中にある教会です。委員会では、これらの教会の歴史を辿

神は愛なり(1)

滝田 十和男

私は、今考えてみると間接的ではあるが、カトリックと出会ったのは、昭和14年の末、まだ小学生だったが、担任の先生から「これはカトリックのデルエン神父様から、クリスマスのお祝いだと言って届けられたものです」と、生徒一人に一本ずつの新しい鉛筆が渡された。まだ学用品も不足がちな時代でもあったので、とても嬉しく感じたのを覚えている。

その鉛筆は消しゴム付きで洒落ていて、金色の文字で「神は愛なり」と聖句が書かれていた。

その聖句が何時の間にか私の脳

りながら、仙台教区がハンセン病問題にどのように関わってきたのかを振り返り、この問題から私たちが学びとるべきことを探し求めています。

現在、松ヶ丘教会には10人、新生園教会には10人ほどの信者が在籍しています。この方々は、「らい予防法（1996年廃止）」下の差別・偏見の厳しい時代を篤い信仰をもって生きてこられた方々です。

このたび、松ヶ丘教会信徒会長の滝田十和男さんにご自身の信仰生活について原稿をお願いしましたところ、ご高齢で体調不良であるにもかかわらず快くお引き受けくださいました。（4回に分けて掲載させていただきます）

人権を考える委員会

委員長 園部英俊

裏に刻み込まれる程のインパクトがあったと見えて、76年経った今でも忘れられないのである。第二回目の出合いは、終戦の前日に小見さんという信者さんが、腸チフスを病んで、一般の療養所とはかなり離れた、誰も行かない野菜畑の隅の小さな隔離病棟で亡くなったとき、私は火葬係の作業を命じられて、遺体を引き取りに行ったところ、小野神父さまが予防着も着ずマスクもしないで、小見さんの遺体を懇ろに仰向かせ、終油の秘跡を授けられて、死者のために長い祈りを捧げるお姿を側で見えて、いたく感動したのであった。

（松ヶ丘教会信徒会長・89歳）

カンボジア・ステンミエンチャイ地区での活動報告⑤

元寺小路教会 小野 武



前回の「小さい・小さい子供の家」(幼稚園年少相当)に引き続き「小さい子どもの家」(幼稚園年中相当)の勉強の様子を紹介させていただきます。

「小さい子供の家」4歳・8歳位 約60人で一番子供達が多く集まるクラスです。このクラスでは、国語・算数・絵・道徳・衛生・規律・音楽・体操等日本の幼稚園を上回るような盛りだくさんの勉強をします。

「クメール語の勉強風景 日本語の方が簡単?」

カンボジアの公用語は、クメール語です。日本語の「Ka Ki Ku Ke Ko」



のKに相当する子音が33文字、「あいうえお」に相当する母音23文字あります。毛糸をからませたような文字ですが、全て書き順があり、有気音と無気音があります。子音の授業の時は、33文字全てを発音練習します。そのうちの一字を書き取り練習します。発音練習の時は、私も子どもたちと一緒に発音すると、子どもたちがみな笑いながら私を見ます。有気音と無気音の区別ができないので、みな同じに「コー・コー・コー・コー」と発音してしまっているのです。子どもたちの一斉の発音は、3カ月もするとサウンドオブミユウジックのように周辺に響きわたるような発音になります。私が世界中の方に聴いてもらいたいと思う素晴らしい一瞬です。

反復練習の効果が表れ子どもたちの可能性に魅せられます。

「衛生教育 こんな劣悪な環境で大丈夫?」

子どもたちの居住環境は、低湿地帯で家の周りにはゴミが山積みしています。また、トイレ設備



がなく、排水設備がないので雨季には、汚水の中を通学することになります。ハエ・蚊・シラミ・サナダムシによる健康被害について紙芝居を使い勉強します。ハエは、集落にある店の野菜・肉・魚にごま塩を振ったように群がっています。シラミは、先生やスタッフが梳き櫛で楽しそうにかき集めます。栄養不足で頭や足に湿疹がある子どももいます。子どもたちの健康を損なう課題が山積みになっています。そこで、私も協力ができないと出来ないことに分けて改善することにしていきます。まず、子どもたちが登校したとき、足と手を洗う習慣をつけることにしました。トイレも教室周辺で済ませていたものをトイレでできるよう準備しました。ゴミもゴミ箱がなく、教室から外に捨てていたので、ゴミ箱を用意しました。でも、スタッフがゴミ箱のものをすぐ側に捨ててしまい効果がなかったのですが、今は、可燃物は、焼却するようにになりました。栄養面では、日本の企業からの助成で牛乳(10円)を毎食食時に出すようにしました。また、肉・魚と卵を出す頻度を多くしました。子ども一人当りの給食費用を20円から倍の40円にすることができた

日本の宗教的伝統とキリスト教

最近日本語に訳出された 教皇フランシスコ「福音の喜び」の第3章 福音の告知の中で、南米における「民間信心」が福音宣教に力があることが述べられ、さらに、「キリスト者が少数である国においては(中略)福音が告げ知らされる文化にふさわしい表現の仕方では表され、その文化との間に結合をもたらすようにしなければならない」と明確な表現で述べられている。

正に、この国において少数者である私たちはどう考えるべきなのであろうか。実際、神道及び仏教的な長い伝統が多く日本人の宗教心の根底にあるといつてよいであろう。さらに遡れば、1万年も続いたといわれる縄文時代を経る中で、日本人は自然との調和の中に基本的な生き方を培ってきたといわれることにまで思いを致して、信仰生活のありようを考えるべきなのかも知れない。

8月のお盆の時期には、鶴ヶ谷のカトリック墓地にも相当数の方がお参りされている。日本人の心情、伝統宗教の中に息づいてきている民間信心の中にも、私たちが学ぶべきものを見出しながらか、私たち自身の信仰生活のありようをじっくりと見直していくことが求められるようになっていっているのであろう。地球を大事にする会 松永 利昭

訃報

シスター・アンジェリーヌ



尾形 キミ

1920年生れ。

1942年コング

レガシオン・ド・

ノートルダム修道会に入会、第2次

大戦でカナダの本部と連絡が取れ

ず、初誓願を1946年まで待つ。

1952年 終生誓願。

2014年7月11日 帰天94歳

最初の3名の日本人会員の一人。

北九州の明治学園の事務長を始め、

各地で責任ある先輩としての使命

のです。家庭での協力は、お母さんにその気になってもらわなければできないので、お母さんたちにとって初めての栄養と衛生改善の教室をはじめました。詳細は次号で。



久子

ドミニコ会 ロザリオ

の聖母修道院

1928年10月28日生れ。

1958年 入会

1962年5月22日 初誓願

1968年5月22日 終生誓願

2014年7月31日 帰天 85歳

立誓願後52年

入会後、外務の仕事に従事。訪問

者、入会希望者に対して心を砕き親

身になって接した。ドライバーとし

て修道院や姉妹たちの求めに積極

的に応え、姉妹たちの人望が篤かつ

た。外務全体の総責任者として最後

まで配慮する心遣いを示した。

前田万葉司教 大阪大司教に任命



教皇フランシスコは、ローマ時間8月20日正午（日本時間同日夜7時）、カトリック大阪教区のレオ池長潤大司教（77歳）の定年による退任願いを受理し、新しい大司教に広島教区司教のトマス・アクィナス前田万葉（まえた・まんよう）司教を任命することを発表しました。

前田新司教は大阪教区の教区長としては歴代8人目、大司教区に昇格してからの大司教としては4人目となります。

着座式の日程は次の通りです。

日時…2014年9月23日（火）

秋分の日 午後2時より

会場…大阪明星学園マリアンホール
前田万葉被選司教の略歴

1949年3月3日 長崎県南松浦郡新上五島町仲知生まれ（65歳）

1975年3月19日 司祭叙階

長崎教区の幾つかの教会を司牧担当

1988～1991年 教会での

司牧のかたわら、長崎教区報『よき

おとずれ』の編集長を務める。

2001～2006年 平戸ザビ

エル記念教会主任、平戸地区長
教区顧問。

2006年4月 宗教法人「カトリック中央協議会」事務局長就任。

2011年6月13日 広島教区司教に任命。

2011年9月23日 司教叙階

カトリック医師会総会

7月26日（土）、元寺小路教会で仙台支部の総会が行われた。開会ミサ後の総会議事に続いて特別講演として、鹿児島教区、マリア山荘霊性センターの坂本陽明神父が、「中国・韓国のキリスト教」と題して話された。

韓国は人口5千万



7月26日（土）、元寺小路教会で仙台支部の総会が行われた。開会ミサ後の総会議事に続いて特別講演として、鹿児島教区、マリア山荘霊性センターの坂本陽明神父が、「中国・韓国のキリスト教」と題して話された。韓国は人口5千万人、カトリック信者数650万人、クリスチャン全体で2千万人、日本は人口1億2650万人、カトリック信者数45万人、クリスチャン全体で120万人、中国は人口13億人、クリスチャンが5千万人、1億3千万人で特に韓国ではカトリック信者の割合が日本の約30倍と多い。この違いは、国民性に因ると思われ、熱心・忠実・動的・原色好み・自己主張・感情を外に出す等の点が考えられる。日本カトリック信者は、静かな教会から聖霊に生かされた元氣な

教会へ向う上で、両国カトリック信者が姉妹提携して学んで行くことが必要と述べられた。なお、毎年夏に行われているカトリック医療関連学生セミナー（H25年8月は鹿児島市）の懇親会で実施している気仙沼市医師会附属高等看護学校支援募金は、ネット募金も含め、1,266,610円であった。引き続き支援をとの連絡を受け、今年度も、京都のセミナーで仙台支部として募金活動を継続することとなった。（我妻恵）

告知板

◆ テゼの祈り

日時：9月12日（金）7：00～

場所：福島松木町教会

連絡先：定方一悦 024-545-6851

e-mail:sadal4@gmail.com

「テゼの祈り」は、フランスのテゼ村ではじまった歌のお祈りです。短く単純な歌を何回も繰り返すことで心を合わせ、祈りを深めていきます。歌が苦手な人でも大丈夫、難しいメロディーではありません。キリスト教信者でなくても大丈夫。心静かなひとときを一緒に過ごしてみませんか。

◆ 霊性センターせせらぎ in 仙台

今、立っている自分の現実から祈ってゆくことによって神と出会うことができるよう、ヘルパーが個人的にお手伝いをします。静けさの中でゆったりと神と語り合う時間をお過ごしください。初めての方も、祈りの導きをしますので安心して参加ください。

■日時：9月23日（火）、10月13日（月）、11月3日（月） いずれも祝日です。

時間：9：15受付～16：00 ミサ その後解散

■費用 1回 2000円

■持参するもの 聖書、筆記用具、弁当

■会場 オタワ愛徳修道女会 東仙台修道院

申し込み：希望する日、氏名、所属教会を記入し、下記メールまたはFAXにてお申し込みください。3回続けて参加することもできます。

メール s.c.o.jp@estate.ocn.ne.jp

FAX 022-293-3675 TEL 022-256-5279 担当 石田

使徒的勧告 福音の喜び

教皇フランシスコ

FRANCISCI

SUMMI PONTIFICIS

ADHORTATIO APOSTOLICA

EVANGELII GAUDIUM

新刊案内 使徒的勧告 福音の喜び

著者 教皇フランシスコ／発行 カトリック中央協議会／定価 1,600円＋税
本書は、教皇フランシスコが最初に出された福音宣教についての使徒的勧告です。

ベネディクト16世教皇は、2012年10月11日から2013年11月24日までの約1年間を「信仰年」と定め、その間の2012年10月7日から28日まで、「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」をテーマに第13回世界代表司教会議（シノドス）通常総会開催を発表されました。

シノドスで討議されたことは、1冊の文書にまとめられ、教皇に提出され、受け取った教皇は内容を吟味し、修正すべきところは修正し、加筆し、教皇の名前で「使徒的勧告」のランクで発表される習わしになっています。

今回は、「信仰年」の最中である2013年2月28日、ベネディクト16世教皇は、退位され、2013年3月13日第266代教皇として、フランシスコ教皇が選出されるということがありました。

退位までの期間にベネディクト16世教皇は、このシノドスに関する「使徒的勧告」は発表しておられませんでした。そうして今回発表されたものが、本書です。

フランシスコ教皇は、登位されて以来、宣教の必要性、誰でも宣教できるのだ、ということをしるべきはおっしゃっていました。そして、喜びをもって生きる人は、キリストをあかしする者としてふさわしい、ということもおっしゃいました。

今回、本書『福音の喜び』で、教皇フランシスコはやさしく、わかりやすい言葉で、私たちに語りかけるように、文章で著しておられます。

6月29日の聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日に、平賀司教が説教で取り上げ、「ぜひ、皆さんに読んでいただきたい」とおっしゃったのが、本書です。

教会にとって、かつてないほど切迫した問題は、「福音宣教」の問題だと感じておられる教皇フランシスコの危機感、そして平賀司教の危機感が伝わってきます。男女信徒、司祭、司教、すべての人にぜひ読んでいただきたいものです。

カトリック仙台司教区 2013 年度決算報告 (2013.4.1.～2014.3.31.)

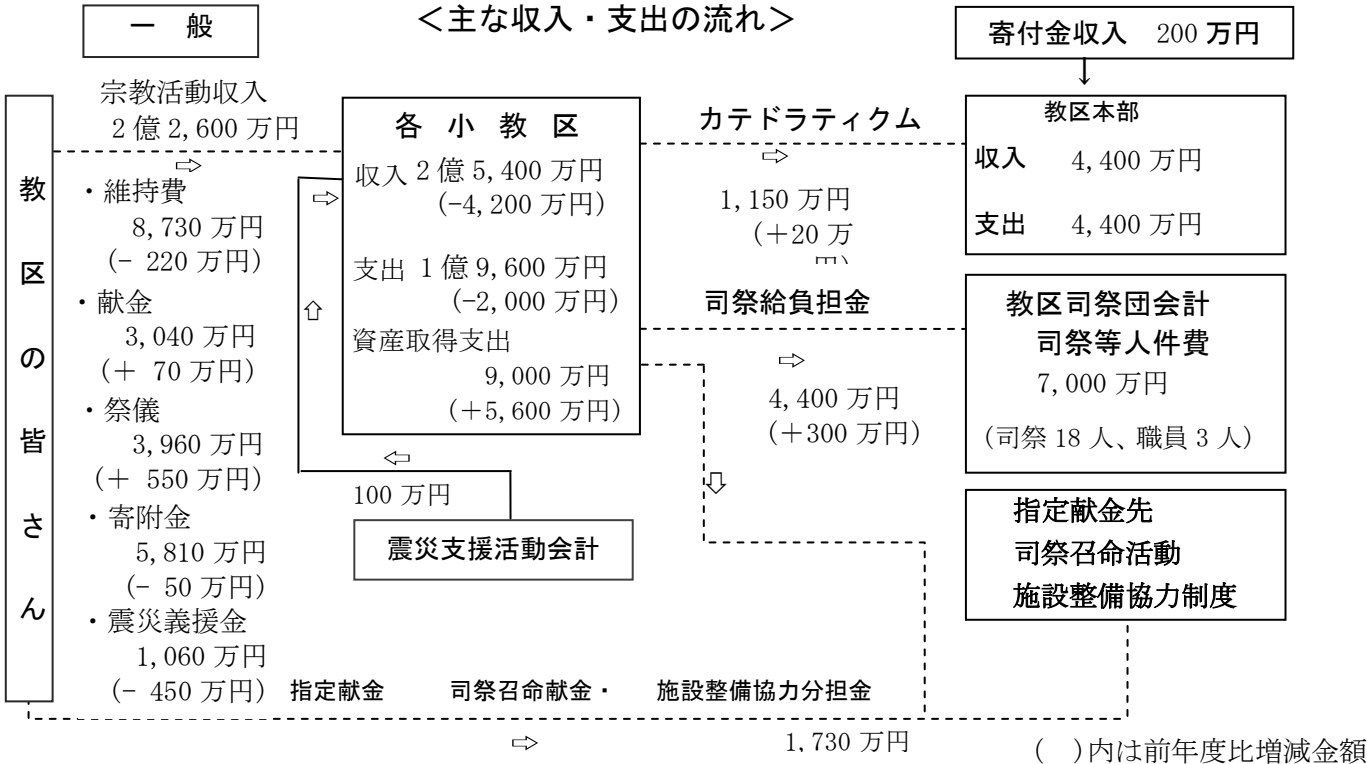
◇仙台教区 2013 年度決算報告にあたって

教区会計 小松 史朗

毎年のことですが、今年も昨年度の「決算報告」をお知らせする運びとなりました。これも偏に、信徒の方々ひとり一人の協力と教会委員会(信徒会)の役員の方々、会計担当の方々の惜しめない協力のたまものと心より感謝申し上げます。震災後3年目を迎え、被災地ではおひとりお一人の持っているパーソナルな違い(男女差、年齢差、収入差、家族のあるなし)から生まれる格差が見え始め、被災地の中でも温度差が感じられる現状です。そのような困難の中でのわたしたちカトリック教会の支援活動は忍耐の中にも小さな喜びと希望を見つけながら弛まぬ歩みを続けております。また、それぞれの小教区ではこの4月から地区制導入によって、難しい課題もありながらも、各地区とも信徒と司祭、そして修道者の結びつきが少しずつ確かなものへと成長しているようです。新しい地区制の中でも、信徒の皆様にはこれまで同様に協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月の大震災支援への義援金は続いて送られていまして、昨年に引き続き信徒への生活支援金や教会の修繕費等に支出されています。

またカリタス・ジャパンの資金援助の基にサポートセンターを通じての、被災者救援活動を引続き行っています。



○ 小教区の収支

(2013.4.1.～2014.3.31.)

(単位 千円)

収入の部	2013 年度	2012 年度	支出の部	2013 年度	2012 年度
1. 宗教活動収入	226,102	227,092	1. 宗教活動支出	39,391	51,903
教会維持費	(87,336)	(89,484)	震災支援支出	(9,007)	(11,472)
献金収入	(30,385)	(29,704)	2. 指定献金支出	17,298	17,762
祭儀収入	(39,601)	(34,095)	3. 事務運営費	79,807	83,863
寄付金収入	(58,111)	(58,638)	光熱水費	(22,599)	(20,923)
震災義援金収入	(10,669)	(15,171)	保守修繕費	(21,971)	(32,381)
2. 指定献金収入	17,762	17,762	4. 人件費	120	396
3. 補助金収入	0	23,484	司祭給与	(120)	(120)
4. 他部門繰入収入	900	16,359	5. 他部門繰入支出	59,377	60,147
5. その他の収入	10,084	11,169	カテドリック支出	(11,586)	(11,331)
施設設備利用料	(3,853)	(4,725)	司祭給分担金	(47,790)	(41,412)
6. 財務収入	64,897	25,257	6. その他支出	325	2,404
			7. 財務支出	127,731	91,066
前年度繰越支払資金	181,366	167,784	次年度繰越支払資金	176,598	181,366
合 計	500,647	488,907	合 計	500,647	488,907

*上記は青森県、岩手県、宮城県、福島県の小教区教会(ドミニコ会所属4教会を除く)の収支報告書を合計したものです。(次頁につづく)

* 2012年度と比較して増減額や特徴的な点をコメントします。

* 2012年8月から移管された 郡山教会、二本松教会分の会計は2013年度は通年分加算されております。

「収入の部」

「宗教活動収入」では1百万円減少しました。

①維持費は2百万円の減少となる。郡山教会、二本松教会分を勘案すると3百万円減少したことになります。

②献金収入は ほぼ横ばいでした。

③祭儀収入は5百万円強の増加となりました。

④寄付金は 微減となりました。

⑤震災義援金は 4百万円強の減少となりました。

「補助金収入」はゼロです。前年度が特別でした。

「他部門繰入収入」は 今年度震災支援活動費援助分1百万円を計上。震災による聖堂等の修理費支援が一段落したものです。

「財務収入」は 特定預金を取崩したものです。

「支出の部」

「宗教活動支出」では12百万円減少しました。①寄付金支出が10百万円減少し、②震災支援支出でも約6百万円減少となりました。

「事務運営費」では4百万円減少しました。保守修繕費で10百万円減少したのが主たるものです。

「財務支出」は固定資産取得支出が90百万円で、56百万円増加し、特定預金への繰入35百万円で21百万円程減少しました。

2011年3月の大震災から3年経過しましたが、まだまだ収支の各所に震災の影響が現れている決算でした。

教区本部に寄せられた「震災義援金」より今年度支出された小教区建物等修理費支出は

釜石教会 621万円、郡山教会 488万円、元寺小路教会 630万円、となっております。

○教区本部会計の収支

(単位千円)

収入の部	2012年度	2011年度	支出の部	2012年度	2011年度
カテドリック収入	14,392	12,855	宗教活動支出	15,969	3,864
祭儀収入	1,290	1,360	宣教司牧費	(5,947	(3,784
寄付金収入	2,183	2,091	事務運営費	11,603	9,525
受取利息	3,854	3,354	人件費	12,893	13,023
その他の収入	3,980	3,903	司祭給与	(5,947	(5,965
他部門繰入金収入	18,680	3,514	他部門繰入金支出	3,700	11,400
経常収入合計	44,316	27,077	経常支出合計	44,165	37,812

次年度繰越支払資金 42,060千円

カテドリック収入は、ドミニコ会4教会 および 修道院分も含まれています。

「収入の部」

- 1.「カテドリック収入」は約150万円程増加となりましたが、2012年度分の送金遅れ分120万円ほどが入っております。
- 2.「寄付金収入」には 昨年度に続いて一般より遺贈の寄付はありませんでした。
- 3.「他部門繰入収入」は 本会計の赤字補てんの為 特別基金より5百万円と フィリピン台風被害救済等寄付の為に受け入れてあります。

「支出の部」

- 1.「宗教活動支出」は宣教司牧で75周年関連出版物と、WYD参加費用等で増加があり、フィリピン台風被害救援等に 寄付金10百万円を支出してあります。
- 2.「事務運営費支出」は支払手数料の増加で2百万円程増加しました。中央協議会への負担金106万円が2013年度まで免除されております。

2,013年度 教区本部会計は 実質的には 5百万円の収入不足が続き、特別基金の取崩で収支を賄った決算となっております。